

学びを深める単元間の繋がりを意識した授業

－ 「何を」「なぜ」「いつ」に着目した授業デザインの提案 －

向井 紋子 ・ 船橋 篤彦*

1. 学びを豊かにする授業

広島大学附属東雲中学校（以下、本校と略記）では、平成 27 年度よりグローバル時代をきりひらく資質・能力を培う教育の創造を研究テーマとして研究を進めてきた（広島大学附属東雲小学校・東雲中学校, 2015）。今年度の本校における研究目的は、グローバル時代をきりひらく資質・能力を子どもたちの主体性・協働性・多様性から捉え、学びを豊かにする授業内容を明らかにすることである（広島大学附属東雲小学校・東雲中学, 2017）。

本稿では、「何を」、「なぜ」、「いつ」に着目し、単元間の繋がりを意識した授業を提案し、「自分らしい進路を考える力」を身につけられるように、学びを深める授業の構造を検討する。

2. 研究の目的と方法

次期学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、子どもたちに生きる力を育むことをめざしている（宮崎, 2017）。今後、我が国で求められる教育の在り方は、子どもたちの主体性・協働性・多様性から学びを豊かにする授業内容を追究する本校の研究活動に合致するものとする。

研究の目的は、特別支援教育における学びを豊かにする授業デザインの視点を、「何を」、「なぜ」、「いつ」の視点から提案することである（渡邊, 2014）。そのために、既習内容から学びを深める単元間を意識した授業を考察する。この研究は、主体性・協働性・多様性を育むことで、自己肯定感の高まりやより主体的な学習態度を育成することにつながる研究である。

3. 学びを深める単元間の繋がりを意識した授業

中学校卒業時に生徒につけたい力として、「自分らしい進路を考える力」を考えた（渡邊, 2013）。そこで、年間指導計画の「進路に関する学習」を見直した。

年度初めに行っていた自己紹介の学習を 2 学期に設定し、「自分の取扱説明書」を作成させた。その意図は、「自分の取扱説明書」を作成させることで、その後の面接練習の学習に繋げていくことを狙ったからである。

次に、単元「自己紹介」における指導目標（表 1）と学習内容（表 2）をあげる。

表 1 「自己紹介」の指導目標

従来の指導目標	新設した指導目標
○一年間の目標を考え、実現しようとする意欲を高めさせる。	○進路を切り拓こうとする意欲を高めさせる。

* 広島大学大学院教育学研究科

Ayako MUKAI, Atsuhiko FUNABASHI

Deepening learning Class conscious of ties among units :

Proposal of a lesson design that went to “what” ,”why” and “when”

表 2 「自己紹介」の学習内容

従来の学習内容	新設した学習内容
1 年間目標を考える。	1 「自分の取扱説明書」を作成する。
2 目標を紙に書いて掲示する。	2 交流する。
3 仲間に決意表明する。	3 再度、「自分の取扱説明書」を作成する。
	4 面接練習の学習を見通す。

単元「自己紹介」を2学期に設定することは、入試の面接での受け答えや、上級学校で新しい仲間と出会う際に自分をアピールする場面を想定しやすいので、進路を切り拓こうとする意欲を高めやすい。また、進路希望が明確になってきている時期で、自分がどうなりたいのか、そのために自分の良さをどう生かすのか、自分に難しいことを他者にどのように伝え、どのように支援（サポート）を引き出すのか、自己分析できはじめているこの時期に作成することで、より詳しい「自分の取扱説明書」の作成を目指そうとし、主体性をもって取り組むことができる。さらに、次の面接練習学習で、作成した取扱説明書（以降、トリセツと呼称）を元に、面接練習に望ませることができる。

4. 「トリセツ」作成上の工夫点

「トリセツ」を作成するに当たって、工夫した点は次の2点である。

①「トリセツ」（図1）の項目を10項目とする。

- ア. 自分の写真（自分らしい場面を撮影させる。）
- イ. ニックネーム
- ウ. わたしの基本性格
- エ. 血液型
- オ. 星座（児童図書の血液型占いの本と、星座占い本を参考にさせた。）
- カ. わたしが輝くとき
- キ. わたしが困ること
- ク. お手伝いをお願いしたいこと
- ケ. わたしのリフレッシュ方法
- コ. わたしの未来

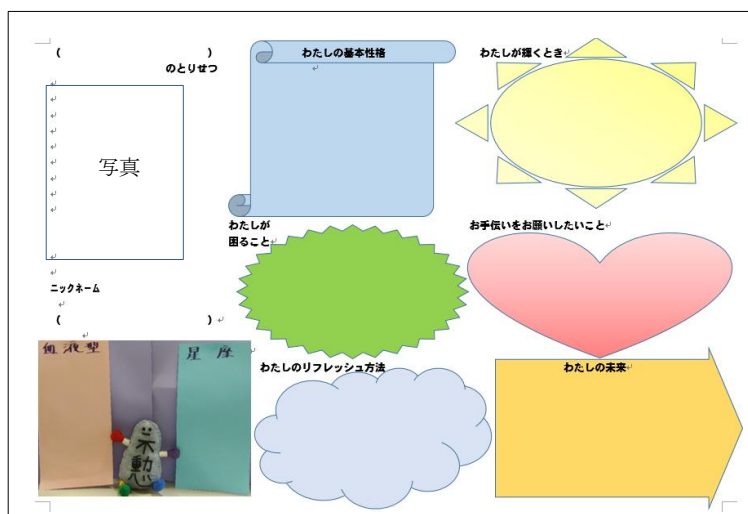
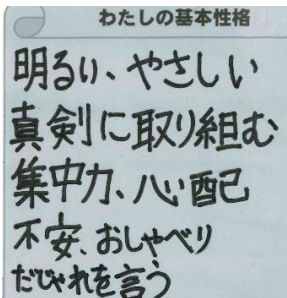
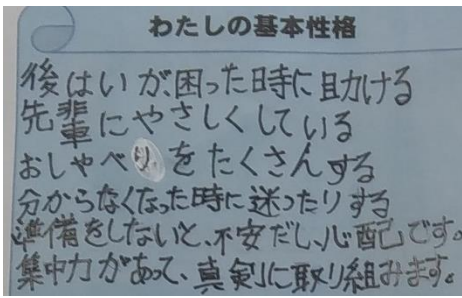
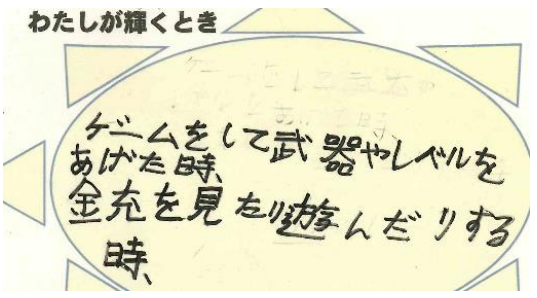
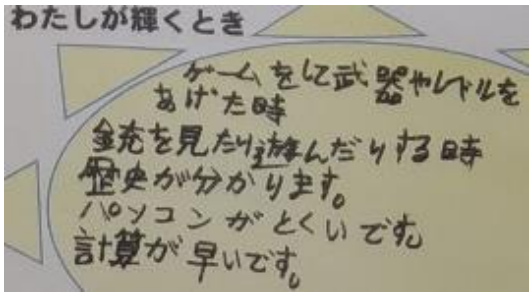
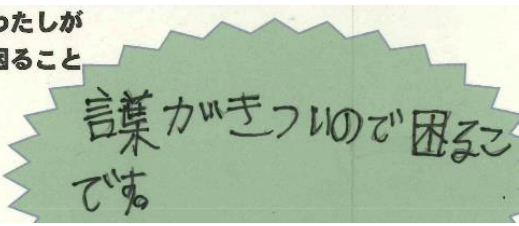
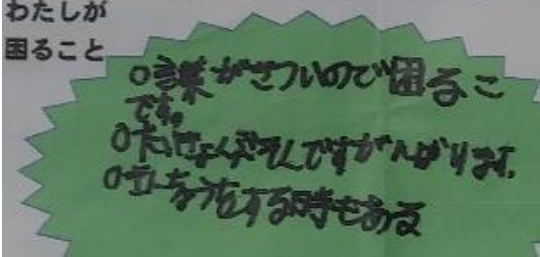


図 1 生徒に配布した「トリセツ」教材

②トリセツを再度作成させる。

仲間からのアドバイスを踏まえて、再度トリセツを作成させた。その結果、表3に示す通りトリセツの記載事項の増加や表現内容の深化が確認された。また、生徒自身も「たくさん書けた。」と喜ぶ様子が見られた。また、アドバイスをやる際、トリセツ説明者の説明に対して、同意できる場合は「なるほどシール」を貼り、さらにアドバイスを考えさせたことで、「まずは仲間の思いを受容する」「自分の意見を認めてもらえた」という雰囲気を作ることができた。アドバイスする方は、仲間の説明を聞きながら、「うん、たしかに〇〇さんにしてあげていたから優しさはいいと思うよ。」など、仲間の姿を思い出すことにもつながり、関連したことやさらに自分の思いついたアドバイスを考え、発表しやすかった様子がうかがえた。

表3 生徒たちが作成した「トリセツの変化」

最初に書いたトリセツ	アドバイス後のトリセツ
	
	
	

5. 成果と課題

本実践を通して、単元構成や学習時期の変更を行うことで、生徒たちが主体的に学習に取り組むことが確認できた。特に、その後に取り組んだ面接練習の授業での生徒の学習に取り組む姿勢に成果があらわれた。当初、面接練習で自己紹介の項目を書く場面で、「〇〇中学校 名前は△△です。」と書いていた。本校では、アメリカの姉妹校との交流が盛んで、自己紹介をする機会が多い。その際「〇〇中学校 名前は△△です。」を英語で話すことが多い。生徒にとって自己紹介は「〇〇中学校 名前は△△です。」と捉えていることがわかったが、入試の場面での自己紹介はこの内容では足りない。そこで「トリセツ」を利用する有効性をアドバイスすると、どの生徒も「私の性格」と「私が輝くとき」を参考に、文章を書き直すことができた。また、冬期休業の宿題に、個人面接練習を出題した。その際、生徒から必要な準備物として、「トリセツを持って帰っていいですか？」と質問があった。既習内容を活用して、自分の学習に活かし、主体的に取り組む姿勢の現れである。これらの生徒の様子からも、学習時期を変更し、指導目標を新設したことの学習効果は大きいと考えられる。

学習事項の順位性の変更は、①自分と向き合ううえで、積極的に取り組みやすくなったこと、②自分のこれからの学習に生かしていける内容（生きて働く学習内容）になったこと、③お互いを理解した関係性で仲間へアドバイスする経験ができたこと、に繋がったと考える。

指導目標を新設したことで、①自分を知ることの学習にとどまらず、自分を知ったうえでこれからどうしていきたいか考える学習になったこと、②自分の良さを仲間が知ってくれていたことから自己存在感を味わうことができたこと、③仲間へアドバイスできたことの役立ち感を実感できたことなどが成果としてあげられる。

課題は、次の面接練習の学習指導法を明確にすることである。作成したトリセツを活用して、新たに単元を開発する必要がある。

6. おわりに

本稿では、「何を」、「なぜ」、「いつ」に着目し、単元間の繋がりを意識した授業計画を提案し、「自分らしい進路を考える力」を身につけられるように、学びを深める授業の構造を検討した。

今回、学習事項の順位性の変更をすることで、単元間の繋がりができ、生徒が主体的に学習に取り組める授業を設定することができた。また、協働的な学習を展開したことで、生徒に新しい自分像ができ、そのことに生徒自身が喜びを感じることができたことも成果である。

本研究は、中学校卒業段階に実施したことに大きな意味があると考えられる。また、生徒実態が様々である特別支援教育では、生徒が「自分らしい進路を考える力」を身につける授業づくりとして、「何を」、「なぜ」、「いつ」に着目し、単元間の繋がりを意識した授業提案することの意義をとらえなおすことができた。生徒の実態把握に努めるとともに、更なる実践授業についての事例研究も進めていきたい。

【 引用・参考文献 】

広島大学附属東雲小学校・東雲中学校：「グローバル時代をきりひらく資質・能力」を培う教育の創造―協働的問題解決ができる子どもの育成をめざして―, 東雲教育研究会実施要項, 2015.

広島大学附属東雲小学校・東雲中学校：「グローバル時代をきりひらく資質・能力」を培う教育の創造Ⅲ―学びを豊かにする授業の探究―, 東雲教育研究会実施要項, 2017.

渡邊昭宏：教科の授業 de ライフキャリア教育, 明治図書, 2014.

渡邊昭宏：みんなのライフキャリア教育, 明治図書, 2013.

宮崎英憲：平成 29 年度版 学習指導要領改訂のポイント, 明治図書, 2017.